

営農技術情報 (第3号) ~ JA富山市米品質向上生産運動展開中~

<目指せ！ 1等米比率 90%以上！！>

品質の高い米を生産するには、「充実した太い茎」と「元気な根」を確保することが重要です。そのため、次の作業を行いましょよう。

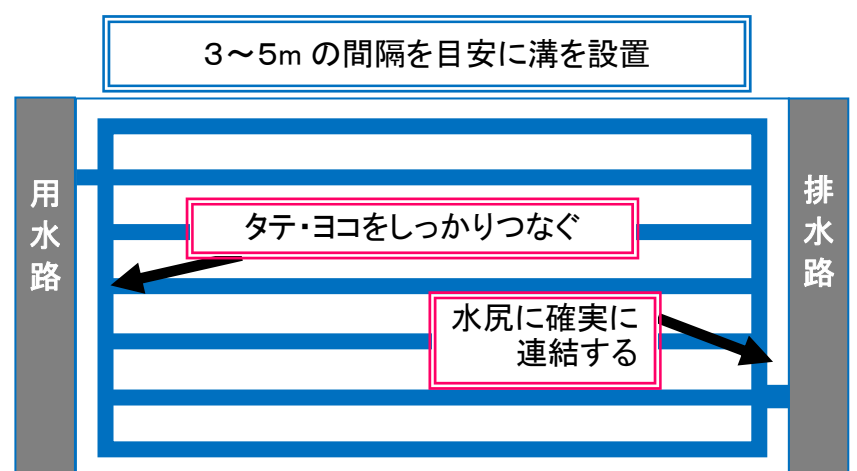
- ① 中干しを効果的に行うため、「溝掘り」を確実に実施しましょよう。
- ② 田植え4週間後までに「中干し」を開始し、根の健全化を図りましょよう。

1. 溝掘り 田植え後3週間ごろから落水、溝掘りをはじめ中干しの準備をしましょよう

溝掘りは、効率的な入排水や、ほ場内の均一な生育管理を行うために有効です。

<溝掘りのポイント>

- ・形が崩れないよう軽く田干しを行い、泥を固めた後、ひたひた水程度まで再入水して溝を掘る。(溝掘り直後に落水する！)
- ・溝と水尻は確実に連結する。
- ・水の切れないほ場では設置本数を増やす。



2. 中干し 田植えの4週間後までに中干しを始め、確実に田面を固めましょよう

6月に入ると急激に分げつが増加します。田植えの4週間後までに遅れず「中干し」を開始しましょよう。

また、出穂後20日間の湛水管理に備え、この時期に確実に田面を固めるようにしましょよう。

① 中干し時期の目安

田植日	中干し時期
5月10日	6月8日までに開始
5月15日	6月12日までに開始

◎ 中干しの効果

- ・無効分げつの抑制
- ・土中への酸素供給
- ・地耐力の向上

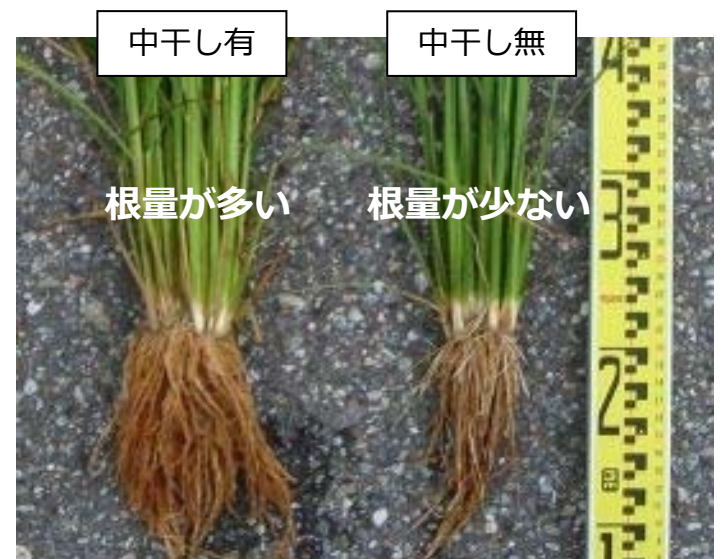


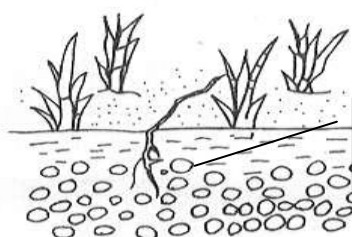
写真 中干の有無による根量の違い

② 中干し程度

- ・田面に軽い亀裂が入る程度を目安に干しましょよう。
- ・復元田は、土がしまりやすいため、一度に干しあげず、徐々に干しましょよう。

普通乾田

→ 干す期間は5日間程度が目安
干し過ぎに注意！！



中干しの終了は、ほ場中央部でくるぶしが軽く沈む程度を目安とする



写真 中干し終了頃のほ場の状態

3. 中干し後の水管理

中干しが終了したら間断かん水を行いましょ

中干し後は、幼穂形成期頃まで湛水と落水を繰り返す間断かん水を実施しましょう。
幼穂形成期まで足跡の深さ3cm程度を目標に地固めしましょう。

4. 中間追肥の施用

珪酸、カリの施用で、丈夫な稲体に仕上げましょ

- ◎珪酸の施用効果
- ・根の活力を高める
 - ・フェーン時に水分の蒸散を防ぐ
 - ・茎葉を丈夫にし、倒伏を防ぐ
 - ・受光態勢を良くし登熟を高める

<施肥量の目安>

肥料名	時期	10a当たり施用量
エスアイ加里らくだ	6月中旬	15kg
エスアイ加里カリ投げくん	～下旬	4kg(200g×20個)

エスアイ加里投げくん

○パック肥料

- ・圃場に投げ込むだけです。重い動噴を担ぐ必要がありません
- ・5cm以上湛水して施用しましょう！

5. 後期除草剤の散布

雑草が残った場合、使用方法を確認し、遅れずに散布ましょ

雑草の状況	除草剤名	10a当たり散布量	散布時期	使用回数	使用上の注意
ホタルイ オモダカ などが残った場合	バサグラン 粒剤	3～4kg	田植後15～55日 (収穫60日前まで)	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・落水して雑草を露出させ、晴天日を選んで散布する ・散布後3～4日間は田に水を入れず、また降雨によって薬剤が流出しないよう、水尻は必ず止めておく ・スポット散布も可
ノビエ のみ残った場合	トドメMF 1キロ粒剤	1kg	田植後14日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	3回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・散布の際は、やや深めの湛水状態とする ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
	ヒエクリーン 豆つぶ250	250g	田植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・散布の際は、やや深めの湛水状態とする ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
ノビエ ホタルイ オモダカ などが残った場合	ワイドショット 1キロ粒剤	1kg	田植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・散布の際は、湛水状態で田面に均一に散布する ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない(晴天日を選んで散布する)
	クリンチャー バスME液剤	1,000ml 希釈水量 70～100L	田植後15日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・晴天日を選び、落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布する ・散布後少なくとも3日間は入水や落水をしない
	トドメバス MF液剤	1,000ml 希釈水量 100L	田植後15日～ ノビエ6葉期まで (収穫50日前まで)	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・晴天日を選び、落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布する ・散布後少なくとも3日間は入水や落水をしない

※富山県農林水産部「令和3年度 農作物病害虫・雑草防除指針」より一部引用

- ・湛水状態で散布する除草剤は効果を高めるため、散布前に軽い田干しを行い、水の入れ替えを行ってから散布しましょう。
- ・除草剤散布の際には、周辺の作物に飛散しないよう注意しましょう。

春の農作業安全運動 (4/1～5/31)